

今度は大阪市の権限放棄策す

「広域一元化」へ条例案

大阪市廃止に2度目のノーマスが突きつけられたばかりの大阪維新の会代表の松井一郎大阪市長は5日の記者会見で突然、「広域化一元化条例案」を来年の2月議会に提出すると表明しました。代表代行の吉村洋文府知事も同日、2月府議会に同様の条例案を提出すると足並みをそろえました。

これにはネットなど「(こんどは条例でも)懲りない維新」(大阪市の)権限を手

放すのか」などの批判の声が広がっています。

会見で松井市長は「リーダーが代わっても広域行政の一元化の体制が維持できるようにしたい。今回の(住民投票の)民意に沿った形で大阪を残すな

かで、二重行政や府市の対立を抑えられる形はできると思う」などのべました。

条例案の詳細は「副首都推進局」で詰めさせるとしています。松井市長は府・市と堺市が成長戦略や広域行政などを話し合う「副首都推進本部会議」の仕組みを条例に盛り込むことを例示。「広域行政を」大阪から府

に事務委託する方法もある」とし、「最終的には知事の決定権のもと、市長と相談しながら、知事が決定していく」形を示しました。

大阪府此花区の人工島「夢洲(ゆめしま)」に誘致する計画のカジノを中核とする統合型リゾート(IR)についても、「カジノ誘致反対

対」の大阪市長が誕生しても「権限は知事」ということになりかねません。

松井市長はまた、大阪市を残したまま、24区を総合区に再編することについて、「やった方がいい」とのべ、かつて8総合区を提案していた公明党に「旗振り」役を促しました。

懲りない維新・松井代表

党利党略の悪あがき

共産党市議団長
山中智子さん



日本共産党大阪府議団の山中智子団長は6日、次のような談話を発表しました。賛否問わず、たくさんの人が大阪市の存廃をめぐって悩み、話し合い、昼夜分かたず行動されました。友人や家族といさかいになるなごつらい思いも多くの人が味わいま

た。今回の市長の発言は、そんな市民の皆さんにあまりにも失礼な話です。『制度いじり』を続けなければ維新の会の存在意義がなくなる、と考えたときか思えない理屈で住民投票の結果を勝手にねじ曲げ、多くの市民が拒否した「大事な仕事の府への移管」を条例化する。実効性がどこまであるかわかりませんが、「やっつる感」「スビード感」をアピールして、「反対するならまた住民投票」という恫喝(どうかつ)にさえ思えます。こんなことに、またぞろ、

時間とエネルギーを使っている時ではありません。コロナ対策をしつかり進めるとともに、残すと決めた大阪市をどう良くしていくのか、市民の皆さんとともに考え、市民が

主役」の大阪市へのスタートを切るべき時です。党利党略の悪あがきをやめさせ、市民の方を向かせるために、市民の皆さんとしっかりと手をつないで全力を尽くします。

自治権の放棄は異常

元大阪府副知事
小西禎一さん



元大阪府副知事の小西禎一さんは、次のようなコメントを寄せました。松井市長が広域行政一元化

のための条例を制定する考えを表明した。大阪府存続の民意が示されたばかりなのに自ら自治権を放棄するのは異常と言っほかない。どのような条例になるか定かではないが、地方自治を保障した憲法にも照らし、何より大阪市民の判断に照らししっかりと検証していく必要がある。